

ぎふこく語

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

発行 平成二十八年八月二日

号外



巻頭言

平成二十九年度全国大会に向けて

岐阜県中学校国語科研究部会会長 伊藤勝彦

宮島康広会長の後を受け、会長を仰せつかりました恵那市立明智中学校の伊藤勝彦です。微力ではありますが、皆さま方のお力をお借りしながら尽力したいと思っています。どうぞよろしく願います。

いよいよ平成五年以来の全国大会が平成二十九年度に迫ってきました。今年度は、来年度の大会開催に向けて万全の準備をする一年であると捉えています。すでに事務局や各研究部を中心に県下各地区の国語部員の

先生方において着々と実践が進められているところです。そこで、第一回代議員会をお願いしたことを確認させていただきたいと思います。

まず、基本的な構えとして、全国大会の一年前の今年度、大会運営及び研究について、おおよその形をつくっておく必要があるということです。大会の内容や運営、さらには授業及び実践発表の内容について十分に検討しておくことです。その際、最も重要なことは、事務局や研

究部と各地区との綿密な連携だと思っております。岐阜大会の最大の特徴は、全県あげて全国大会に臨むことにあります。授業者や実践発表者は担当する地区の代表者として発表します。その背後には、担当地区の国語科先生方の貴重な実践や思いがあります。平成二十九年度の全国大会は、中学校国語科実践人の総力をあげての岐阜大会でありたいと願っています。

今回の岐阜大会には全国から期待が寄せられています。岐阜県の先生方の指導力の高さ、さらには生徒の主體的な学びの姿をぜひ、全国の先生方に見ていただきたいと思っています。折しもアクティブ・ラーニングが叫ばれている時です。「主體的・協働的な国語学習の実現」を岐阜大会のコンセプトに各地区での実践をお願いします。岐阜県の子どもたちは、学習に主体

的に取り組む姿が随所にみられます。また、仲間と共に深まりのある学びの姿がみられます。実現のための手立てと共に全国に発信していきたいものです。

また、今大会を契機として、岐阜県の国語学習の質的な向上が図られることを願っています。次期指導要領の方向性が示された今、今後の国語の指導のあり方を示唆するような提案性のある大会になればなおさらすばらしいと考えます。また、若い先生方を中心に意欲的に学ぶ場が大会を迎えるに当たって提供できれば、今大会の意義がさらに大きなものになると考えています。岐阜県の国語人の力を結集し、ぜひ、岐阜大会を成功させましょう。



中国研全国大会 岐阜大会に向けて

中学校国語科研究部会 主務 今井 則雄

一 全国大会に向けて

第四十六回全日本中学校国語教育研究協議会 岐阜大会まで一年半となりました。

昨年度は研究組織を一新し、書くことの領域が一つ増え六部会で研究を進めてまいりました。また、研究テーマも新しくなり、今の前の生徒たちに必要とされる力を育成することができるといえます。代議員の先生方、研究部員の先生方の尽力された証だと思います。ありがとうございました。

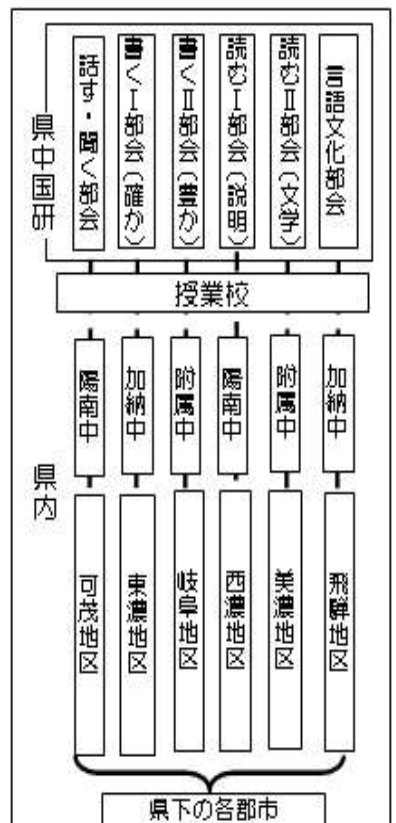
今年度は、大会の当該年度を見据え、実践を行っていく年だと思います。授業者の指導案を作成し各領域で模擬授業を行ったり、担当地域で実践を行いプレゼン作成をしたり、運営上の準備をしたりする一年だと思います。例年にも

増して先生方のお力をお借りしないと進んでいきません。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

二 研究について

① 夏季研修会

夏季研修会は、県内の先生方に少しでも参考になればと考え、国立教育政策研究所の先生や、大学の先生をお迎えし講演会のような形をとっていました。また、県大会の当該年度などは、指導案の検討会やプレゼンの検討会などを行い、進捗状況の確認を行うこともありました。昨年度は全国大会に向けて教育研究所で研究部会を行い、研究テーマを考える会などを行いました。今年度は全国大会の前年度として、地区ごとで行っていただいている実践を持ち寄って検討したり、領域部長から研究の



三 全国大会当日について

方向を確認したりする会にするために、地区ごとに開催することになりました。いろいろな先生方に参加していただきながら、「岐阜県の国語」が全国に発信できるように磨き上げていきたいと考えています。

・夏季研修会実施日
日時 八月十七日(火) (県統一研究日)
場所…右図の担当領域に応じて行う

- ◆ 研究部の方向の確認
 - ◆ 研究部、地区の実践交流
 - ◆ 地区代表プレゼンに向けて
 - ◆ 全国大会指導案の検討
- (各地区にて時間や場所などは決まり次第お伝えします)

- ◆ 加納中・陽南中・附属中
- ◆ 公開授業
- ◆ 各中学校にて
- ◆ 授業研究会
- ◆ 実践発表会
- ◆ 閉会行事

県内の先生方のお力添えがないと大会を運営していくことができません。研究・運営両面でお支えください。

四 その他の活動について

□第四十五回全日本中学校国語科研究協議会(鳥取大会)実践発表

鳥取県で行われる全日本中学校国語教育研究協議会において、県下の実践を発表することが決定しました。書くことⅠ(確かに書く)部会が中心となって実践発表の準備に取り掛かります。この実践及び発表が来年度の全国大会への弾みになり、さらに県下の先生方の指導の一助となるよう広げていきたいと考えています。

日時 平成二十八年十一月十七日(木) 十八日(金) : 実践発表

大会会場 とりぎん文化会館、鳥

取市立国府中学校、国府町

中央公民館

岐阜県の発表領域 「書くこと」

発表者 梅田 佳宏

(岐阜市立加納中学校教諭)

□ 明日の授業を考える会(国語の授業研修会 旧若手の会)

〔期日〕八月三日(水) 午前

〔会場〕岐阜市立境川中学校

経験年数の少ない先生方や小学校から中学校へ校種を変更された

先生方、小規模校で不安をおもちの先生方に参加していただき、日頃の授業に対する悩みや、魅力ある授業の構想のしかたなどを交換し合う研修会を行っています、夏季・冬季の二回開催しておりますのでぜひ参加ください。

三人から五人ぐらいのグループをつくり、事前につかんでおいた話題をグループ全体で考えていく方式は大変有効にはたらいていると思います。普段、「こんなことを聞いていいのかな」「今さら聞きづらいな」と思うようなこともどんどん話せるので参加者からも好評頂いています。普段から教材を研究して授業には臨んでいます、国語科部員で検討し合うと必ず新しい発見があります。話す側にとっても聞く側にとっても力が付くも

のだと思います。ぜひご参加ください。

各校に案内及び参加申込書が届きます。積極的な参加をお待ちしています。

□「ぎふこくご」実践論文募集

本年度も、各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広め、学び合うことを目的として「ぎふこくご」実践論文募集事業を行います。各市郡の代議員の先生から、各校に要項が配付されていることと思います。国語科の今日的課題をふまえた提案性のあるご実践、生徒の実態に即した工夫あるご実践等、先生方の熱意ある授業実践をお待ちしております。よろしく願います。

□ Web 「ぎふこくご」

県中国研のホームページです。先輩方が書かれた「ぎふこくご」の復刻版や、授業に活用できるコンテンツも多く掲載しています。

是非ご活用ください。

<http://kokugo.chu.jp/>

□第二回代議員会

平成二十九年二月二十一日(水) 十時から行います。午前は代議員会を行い午後からは研究部総会を行う。代議員の先生方は終日参加していただき、研究部員については午後からの参加をお願いします。

□お願い

平成二十九年当初に県内の全ての国語の先生方から四〇〇〇円ずつの協力金を集めさせていただきました。第二回の代議員会の際に、各学校に振り込み用紙を配付させていただきます。先生方からの集めさせていただきます。お金や助成金が運営資金となりますのでよろしく願います。



【平成二十八年年度中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

〈言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して〉

一 はじめに

平成二十九年度に中国研全国大会が岐阜県で開催されます。岐阜県で全国大会が行われるのは、実に二十三年ぶりのことです。中国研には他教科にあるような東海ブロックが存在しません。だからこそ、岐阜県から発信していくことは、岐阜県中学校国語科研究部会の悲願でした。「岐阜県プラン」を提唱し、全国大会で発信した二十三年前のように、これまで岐阜県中国研として研究を重ねてきた「言語活動」の成果を発信したいと考えています。

全国大会に向けて、岐阜県の国語を、全国挙げて考える一年です。

この言葉は、昨年度に研究総括を務めさせていただいてから、代

議員会で話をさせていただいて

る言葉です。全国大会では、岐阜市立加納中学校、岐阜市立陽南中学校、岐阜大学教育学部附属中学校の三校が六つの授業を公開します。さらに、実践発表を各地区の実践から発表していきます。つまり、全県を挙げて岐阜県の国語の実践を全国に発信していきます。

五月から六月にかけて、各地区の校外研・市教研に参加させていただきますました。積極的に授業を公開される若手の先生から、今までもあまり実践をしていない領域にもチャレンジすることで、少しでも授業力を向上させようとする前向きな気持ちを感じました。また、教材分析や技術的実践を惜しみなく示してくださる熟練の先生から、

自分たちの地区の実践を全国に発信することを意気に感じてくださっているのを感じました。どの地区でも、生徒の言語能力の高まりが実感できる授業を創り出そうと活発な研究会が行われていました。

全国大会まであと一年です。生徒に軸足を置いた生徒主体の授業を、県内の国語教師全員で創り上げていきたいです。よろしくお願ひします。

二 今年度の研究主題

【平成二十八年年度中国研 研究主題】
生きてはたらく言語能力の育成
〈言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して〉

今年度は、この研究主題について、各研究部会と各地区が力を合わせ、方向性を明らかにしていく一年になっていきます。教育の今日的な方向性に加え、これまで岐阜県中国研として研究を重ねてきた「生きてはたらく言語能力の一覧表」、「言語活動一覧表」や「単元指導計画」などの修正も行いな

がら、平成二十九年度の全国大会に向けて、さらなる一步を踏み出していきたくと考えています。

「生きてはたらく言語能力の育成」

岐阜県中国研では、「生きてはたらく言語能力の育成」について、**表現力と理解力の両面を身に付けた生徒が、社会生活などの多様な場面や状況に応じて、その力を生かし、適切に表現したり、正確に理解したりする力(関心・意欲・態度なども含む)として育成することと捉えています。**

そのために「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」の領域ごとに副主題を設定し、「言語能力の育成」を図ろうとしています。

三 各領域について

「生きてはたらく言語能力」を、それぞれの領域において、「どのような力の高まりであるか」ということを明確にして取り組みたいと考えています。その力をより詳細にとらえるためには、三領域一言語事項に関わって、何を高めるの

領域と担当地区・授業校

話す・聞く	↓	可茂地区	↓	陽南中
書く(確か)	↓	東濃地区	↓	加納中
書く(豊か)	↓	岐阜地区	↓	附属中
読む(説明)	↓	西濃地区	↓	陽南中
読む(文学)	↓	美濃地区	↓	附属中
言語文化	↓	飛騨地区	↓	加納中

かを明確にして、定義付けていくことで、より鋭角的に研究が進められると考えました。

平成二十九年度の全国大会を見据え、それぞれの領域をさらに細分化します。また、それぞれの領域を各地区で担当していただき、研究部とともに実践を積み重ねていきたいと考えています(右枠をご参照ください)。具体的には、校外研・市教研や夏季研修会で進めていきます。



四 「言語活動の充実」とは何か
岐阜県中国研の考える言語活動

付けた力を明確にした、
生きてはたらく言語活動

今回の学習指導要領の改訂でも重視されたことの一つに、「国語科指導においては、言語活動を通して指導事項を確実に身に付けさせる」ことが挙げられています。しかし、一言に「言語活動」と言っても、なかなか明確にとらえることができません。そこで、岐阜県中国研として、この「言語活動」についてのとらえを明確にしました。

岐阜県中国研で捉えている言語

活動とは「目的、課題解決的に言語を使って、単元を通して学習していくことのできる活動」です。このように単元を構想すれば、生徒は学習に対しての目的をもち、主体的に学習を進めていくことができますと考えています。中国研では、この「付けた力を明確にした、生きてはたらく言語活動」を充実させることこそが、国語科で求められているものであると考えています。

例えば、「書くこと」の単元「分かりやすく説明しよう」において、言語活動を「私のお気に入りの場所を友達に紹介しよう」と設定し、たとします。その場合、「取材」「情報整理」「構成」「記述」「推敲」「交流」までの一連の学習活動を全て「私のお気に入りの場所を友達に紹介する」という立場(観点)で行うこととなります。また「読むこと」においても同様に、作品の価値に迫っていきけるよう「語句の意味」「文章の解釈」「自分の考えの形成」「読書と情報活用」

のどこに重点を置くとよいかを考えます。

これらの指導により、学習指導要領の指導事項に沿って目的、課題解決的な学習を行い、生徒の学習意欲を喚起することができます。また、その単元や一単位時間における指導事項の重点化、つまり付けた力を明確にすることができると考えています。

五 「生きてはたらく」という意味

前述において、岐阜県中国研では、「**表現力と理解力の両面を身に付けた生徒が、社会生活などの多様な場面や状況に応じて、その力を生かし、適切に表現したり、正確に理解したりする力(関心・意欲・態度なども含む)として育成すること**」と述べました。

例えば、終末に言語活動を設定する単元があります。学習のゴールを生徒と共有し、その活動に対する課題解決的な学習を積み重ね、その上で、付けた力が付いたかどうかを評価するという言語活動

です。つまり、単元の出口の活動や単元の第三次の表現活動を位置付け、言語活動と設定することがあります。

しかし、**国語科においては、単元の出口の表現活動だけが言語活動ではありません。一単位時間に行われる日々の授業こそが言語活動です。**書くことの指導でいえば、取材時にメモすることの位置付け、構成でのワークシートへの記入、話合いの位置付けなどが言語活動だと考えます。つまり、**学んだことが実生活や実社会に生きてはたらく力となる言語活動であること**が大切なのです。岐阜県中国研では、「言語活動一覧表」を作成し、実践を積み上げ、全国に発信できるようにします。



【八月十七日(火)の夏季研修会】

- ・研究部の方向の確認
- ・研究部、地区の実践交流
- ・地区代表プレゼンに向けて
- ・全国大会指導案の検討

【指導計画の工夫】

- ・「生きてはたらく言語能力の具体化一覧表」を位置付けた年間(単元)指導計画の作成
- ・中学校三年間で身に付けさせたい言語能力を網羅した「生きてはたらく言語能力の具体化一覧表」の作成

【指導方法の工夫】

- ・「生きてはたらく言語能力の具体化一覧表」の活用と言語活動の工夫
- ・岐阜県ならではの地域教材・新しい単元の指導の開発

六 今年度の研究の方向

本年度は、平成二十九年年度の全国大会に向けた研究の方向、研究内容をどのように考え、実践します。昨年度の実践をもとに全国大会に向けて、提案・発信していきたいと考えています。

七 さくいん

全国大会という、またとない機会を最大限に生かし、県内すべての国語教師の皆様とともに理念や方向性などを共通理解していかれたらと考えています。よろしくお願ひします。

